

捏造によるプロパガンダ

JJ1SXA/池

4月23日付(2013年)の「真悟の時事通信」(西村真悟)の記事を見て驚きました、「旧日本軍に殺された司教、列福へ一歩前進」という見出しの捏造記事が、「カトリック新聞オンライン」に掲載されているというもので、早速、「カトリック新聞オンライン」にアクセスして記事を読みました。

内容は…昭和12年10月に河北省のカトリック施設に日本軍が来て、施設内の200名の女性を引き渡すよう要求し、それを拒否したオランダ人司教以下9名の宣教師を殺害した。後日、日本軍の宣撫班のカトリック信者の将校がやってきて、追悼式を実施し、日本軍も参加した。…という内容です。

西村氏に情報提供した人が、1937年11月12日、26日の「Catholic Herald」紙及び、1937年11月23日の「The New York Times」紙の記事を調べたら…9人のオランダ人聖職者達は、中国の山賊に誘拐され身代金5万ドルを要求された。日本軍は付近の地域一帯を徹底的に搜索して山賊を追い司教を救出しようとし、地元自警団2000人も日本軍に協力したが、誘拐された聖職者は山賊に殺されていた。…と、全く逆の内容が報道されていたそうです。

西村氏曰く、…この報道は、当時為されたものであり真実であろう。しかも、事件から七十六年後の今回の記事の奇妙な点も解決する。この奇妙な点とは、日本軍将校が殺害された司教の追悼式を実施し日本軍も参加した、という点だ。つまり、司教を虐殺したのは中国人である。またしてもそれを日本人が為したと捏造され世界に流布されようとしている。誰が捏造しているのか。…と。

世界に冠たる「The New York Times」の記事は信用できるでしょう、私もその報道が正しいものと信じます、ということは、西村氏の言う…日本人は西洋人の聖職者も殺戮していた人類の文明に対する敵だという強烈なプロパガンダを可能にする捏造である。…ということになります。

この件に、中国共産党が関与しているかどうかはわかりませんが、桜井よし子氏のコラム「不都合な歴史を消す、中国式記憶喪失」(2013/4/11)の中で言う、…中国共産党の壮大な情報操作に、こちらも情報発信で立ち向かわなければならない。その闘いにおいて、日本は中国より断然優位に立つ。なんといっても私たちは嘘をつく必要も、壮大な仕掛けで捏造する必要もない。日本国と日本人に必要なのは、捏造によって汚名を着せられてたまるものかという強い信念である。…を再認識した次第です。

陸、海、空と宇宙空間に加えサイバー空間が戦場と言われる今日、平和ボケした日本は、これ等の対応が遅れていた、防衛力のアップは当然、情報戦でも、捏造で世界にとんでもない情報を発信する、隣国の中国、韓国に負けないように、情報戦力のアップを図り、正しい歴史認識を世界に発信し、泥にまみれた、恥知らずの捏造歴史を絶滅するよう望みます。